

2025年度 長岡大学シラバス

授業科目名	家族社会学 (Family Sociology)					担当教員	米山 宗久 (ヨネヤマ ムネヒサ)	
2020-23年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型AL / 協同学 修型AL / 課題解決型AL / 外 部講師招聘科目
	2013-0-13-043	教養科目	選択	2単位	1年次	後期		
2024-25年度 入学者(24K-25K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型AL / 協同学 修型AL / 課題解決型AL / 外 部講師招聘科目
	2413-0-13-041	教養科目	選択	2単位	1年次	後期		

① 授業のねらい・概要
家庭や家族の基本的機能を理解するとともに、結婚やワーク・ライフ・バランスなど、今日の家庭福祉が直面する課題について適切な知見を得ることを目的とする。さらにその対策としての必要性を理解できるようになることを目標とする。 家族のイメージと実像、家族の形態、夫婦、子育てなどを整理したうえで、家族をめぐる社会問題を取り上げて現状と課題を明らかにする。できるだけ発言の機会を設けるとともに、学修内容の理解を深めるために学童クラブのフィールドワークや視聴覚教材を用いたり、外部講師を招聘する。地方公務員、ケースワーカー、教職員を目指すための内容である。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する能力を養う。
③ 授業の進め方・指示事項
テキストに基づき、追加的事項を補足しながら授業を進める。レポートや小テストを実施して、フィードバックを行う。協同学修型ALでは、外部講師を招聘してディスカッションを行う。また、子ども家庭福祉を理解するには現場を把握する必要があるため、フィールドワークとして学童クラブのヒアリング課題を行う。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
社会学を履修しておくことが望ましい
⑤ テキスト(教科書)※授業で使用する。
園井ゆり・浅利宙・倉重加代(2022)「第4版 家族社会学 基礎と応用」九州大学出版会
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。
浦田雅夫(2020)「新・子ども家庭福祉」教育情報出版 永田夏来・松木洋人(2017)「入門 家族社会学」新泉社
⑦ 担当教員からのメッセージ(昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)
社会福祉主事任用資格の取得及び福祉住環境コーディネーターを目指すなど、公務員や福祉関係の職業、ケースワーカー、教職員等を希望している学生は必ず受講してもらいたい。レポートと小テストを合わせて、7回程度行う。外部講師招聘時は予習として課題を提示する。社会福祉は現場を知る必要があるため、フィールドワークでは、自分で学童クラブと訪問調整を行って現状を把握する。授業の詳細は研究室ドアに掲示する。
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) 家族機能の問題を理解する。 (ii) 少子高齢化による家族の変化を理解する。 (iii) 夫婦関係や結婚の多様化を理解する。 (iv) 子育てと介護の諸問題を理解する。 (v) 虐待と家族関係を理解する。

⑨ ルーブリック					
評価基準	S	A	B	C	D
評価項目	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成に相当の努力を要する
(i) 家族機能の問題を理解する。	家族の機能を踏まえて、家庭や地域社会とのかかわりについて必要性を説明できる	家族の機能を踏まえて、家庭とのかかわりについて必要性を説明できる	家族の機能を踏まえて、家庭と地域社会とのかかわりについて資料等を見ながら説明できる	家族の機能を踏まえて、家庭とのかかわりについて資料等を見ながら説明できる	家族の機能を踏まえて、家庭とのかかわりについて教員等の支援を受けても説明できない
(ii) 少子高齢化による家族の変化を理解する。	少子高齢化の現状を踏まえて、家庭や地域社会における変化や課題の説明ができる	少子高齢化の現状を踏まえて、家庭や地域社会における変化の説明ができる	少子高齢化の現状を踏まえて、家庭や地域社会における変化について資料等を見ながら説明できる	少子高齢化の現状を踏まえて、家庭について資料等を見ながら説明できる	少子高齢化の現状を踏まえて、家庭や地域社会における変化について教員等の支援を受けても説明できない
(iii) 夫婦関係や結婚の多様化を理解する。	夫婦関係の現状を踏まえて、結婚の多様化の背景と対策を説明できる	夫婦関係の現状を踏まえて、結婚の多様化の背景を説明できる	夫婦関係の現状を踏まえて、結婚の多様化の資料等を見ながら説明できる	夫婦関係の現状を踏まえて、結婚の資料等を見ながら説明できる	夫婦関係の現状を踏まえて、結婚の多様化の説明を教員等の支援を受けて

					も説明できない
(iv) 子育てと介護の諸問題を理解する。	子どもを取り巻く社会の現状を踏まえて、不登校・ひきこもり・いじめ・依存症などの社会的背景と対策を説明できる	子どもを取り巻く社会の現状を踏まえて、不登校・ひきこもり・いじめ・依存症などの社会的背景を説明できる	子どもを取り巻く社会の現状を踏まえて、不登校・ひきこもり・いじめ・依存症の資料等を見ながら説明できる	子どもを取り巻く社会の現状を踏まえて、不登校・いじめの資料等を見ながら説明できる	子どもを取り巻く社会の現状を踏まえて、不登校・いじめの説明を教員等の支援を受けても説明できない
(v) 虐待と家族関係を理解する。	家族関係を踏まえて、虐待が発生する原因と課題を説明できる	家族関係を踏まえて、虐待が発生する原因を説明できる	家族関係を踏まえて、虐待が発生する原因について資料等を見ながら説明できる	家族関係を踏まえて、虐待が発生について資料等を見ながら説明できる	家族関係を踏まえて、虐待が発生について教員等の支援を受けても説明できない

⑩ 学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	45%	20%	25%		10%		100%
(i) 家族機能の問題を理解する。	9%	4%	4%		2%		19%
(ii) 少子高齢化による家族の変化を理解する。	9%	4%	4%		2%		19%
(iii) 夫婦関係や結婚の多様化を理解する。	9%	4%	4%		2%		19%
(iv) 子育てと介護の諸問題を理解する。	9%	4%	9%		2%		24%
(v) 虐待と家族関係を理解する。	9%	4%	4%		2%		19%
フィードバックの方法	レポートはプレゼンテーションを行い、フィールドワークはグループディスカッションを行い、小テストは解説を行う。						

⑪ 授業計画と学習課題		
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）
1	オリエンテーション	家族とは何か 60分
2	家族の変動	家族の変化を理解 180分
3	配偶者選択と結婚	結婚成立を理解 180分
4	夫婦関係	家制度と夫婦関係を理解 180分
5	親子関係	親子関係を理解 180分
6	高齢者と家族	高齢者の家族構成を理解 180分
7	小テスト	1回～6回目授業のまとめ 180分
8	結婚の多様化と家族	近代的な結婚規範を理解 180分
9	生殖補助医療と家族	生殖補助医療を理解 180分
10	就業と家族	非正規雇用を理解 180分
11	少子化と子育て環境 ◆	少子化の原因を理解 180分
12	児童虐待と里親制度	児童虐待を理解する 180分
13	中高年世代と家族	中高年者の社会的孤立を理解する 180分
14	子どもの居場所の諸問題	フィールドワークの検証 180分
15	小テスト	8回～14回目授業のまとめ 180分

⑫ アクティブラーニングについて
知識定着・確認型 AL を採用し、レポート・小テストを行う。協同学修型 AL では、外部講師を招聘してディスカッションを行う。課題解決型 AL では、フィールドワークを行う。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設では、生活保護・障害者福祉・高齢者福祉・ひとり親家庭福祉・児童福祉・介護保険制度や児童館に関わる行政業務、ボランティア支援・市民協働活動・福祉教育に関わる地域福祉・ソーシャルワーク業務、利用者の処遇・生活支援・相談業務に関わる利用者支援業務に従事してきた。また、行政計画である「地域福祉計画」「地域福祉活動計画」「介護保険計画」「障害者計画」の計画策定を行った。さらに「長岡市高齢者保健福祉推進会」「長岡市地域包括支援センター運営部会」「長岡市福祉有償運送運営協議会」「長岡市福祉施設指定管理者選定委員会」「長岡市男女共同参画審議会」「長岡市障害者施策推進協議会」「長岡市民生委員推薦会」「長岡市自殺対策連携会」「長岡市ボランティアセンター推進会議」などの委員を歴任している。
実務経験と授業科目との関連性
行政機関・社会福祉協議会・民間福祉施設における経験から、社会に起きている事項について、客観的視点、主観的視点、支援者の視点、住民の視点など多角的視点から社会を見ることを学生に伝えることができる。 たとえば、家族関係が希薄化する原因、家族内で起こっているDVや児童虐待の現状、課題と対策の必要性を伝えることができる。さらに行政として対応した実体験として、相談機関や保護機関を理解してもらうための必要性も伝えることができる。 また、地域福祉計画や地域福祉活動計画においても、市民が行う活動の現状と課題・問題点が明記されている。それらの知識を学生に伝えていくことによって、学生は現状と課題をまとめたり、課題解決策を導き出す能力を養うことができる。 さらに、ボランティア活動を積極的に行い、学生の主体性やコミュニケーション能力の向上を支援することができる。